



世界農業遺産
平成25年5月認定

大分県国東半島宇佐地域

しいたけ栽培のほだ木に利用するクヌギは、約15年のサイクルで伐採・萌芽・再生を繰り返し、クヌギ林が維持されます。クヌギ林は雨水を蓄え、そこから有機物を含んだ湧水をいくつものため池に溜めて、農業に利用します。



世界農業遺産認定による効果

※R6.3月現在

次世代への継承

小学校、中学校、高等学校で世界農業遺産に関する学習を実施

- 小学校:世界農業遺産を題材とした教材本(マンガ)を使用した授業を実施 (R5年度 認定地域内全59校)
- 小学校:世界農業遺産を題材とした作文コンクールを実施(R5年度 応募点数21校・141点)
- 中学校:農林水産業従事者を講師とした出前授業を実施(R5年度 認定地域内全23校)
- 高等学校:農業者等に聞き取りを行い記録を残す、「聞き書き」を実施(R5年度 県内11校)



▲教材本(マンガ)



▲中学校特別授業



▲高校生聞き書き発表会

- ✓ 生まれ育った地域への理解と誇りが醸成されている。
- ✓ 聞き書きに参加した高校生が地元で就農を目指しているなど、農業を担う次世代の育成につながっている。

地域の元気づくり

魅力発信

- 多様な媒体による世界農業遺産の魅力発信
- 他の認定地域と連携した魅力の発信

交流人口の拡大

- 地域資源の発掘と磨き上げ
- 受入体制の整備
- 地域の自主的な活動への支援

ブランド化

- 世界農業遺産地域ブランド認証品を4品目設定 (乾しいたけ、シチトウイ加工品、米、茶の湯炭)
- シンボルマークを貼付した世界農業遺産応援商品の拡大(61企業・団体282商品)



▲田植え体験交流



▲ブランド認証品「茶の湯炭」



▲各種応援商品

- ✓ 認知度向上による、来訪者の増加や地域商品の販売促進
- ✓ 地域の自主的な活動の広がり